

会報 こぶし

北陸電波学校
北陸電波専門学校
北陸電波高等学校
金沢工業大学附属高等学校
金沢工業高等専門学校
国際高等専門学校
金沢工業大学

VOL
75
2025.1



特集 / Challenge

活躍する同窓生

お馴染みのこぶし祭を開催
スタンプラリーが人気!

金沢工業大学は6学部17学科体制へ

KIT入学教育でサポート

母校での学びを力に、目標へ向かって挑み続ける同窓生の柴田達寛さん(左)とやまだのりこさん

岐阜支部

しばた たつひろ
柴田 達寛さん

[大学・機械・平成9年卒]
柴田自動車株式会社代表取締役



タイヤ製造事業に参入し、 国内5社目のメーカーに

出発点はタイヤにかかる 費用の削減

柴田さんは、岐阜県坂祝町に本社を置く柴田自動車で、日産のR31スカイラインを主とする中古スポーツカーの整備・販売をはじめ、同車の専用パーツの製造・販売、ラジコンカーの製造・販売、モータースポーツ活動、そしてタイヤの製造・販売などを手がけています。

これらはいずれも柴田さんが立ち上げた事業で、起業家としての側面が際立ちます。なかでも近年、特に大きな成長が見込まれているのが、「SHIBATIRE」のブランドで展開するタイヤ事業です。

自動車レースには、コーナーを曲がる際

にタイヤを意図して滑らせる「ドリフト」という走行テクニックがあり、このドリフト走行を使ってタイムを競うレースが人気を集めています。柴田自動車ではモータースポーツ活動の一環として、平成30(2018)年からドリフトレースに参戦していますが、タイヤの消耗が激しいドリフト走行はドライバーの練習でもタイヤを大量に消費し、「年間2500万円の経費がかかりました」と柴田さんは振り返ります。

柴田さんは「少なくとも練習用タイヤは、自分たちで造ったほうが安いのではないか」と思い立ち、令和元(2019)年8月に中国・上海で開催されたタイヤエキスポに単身で訪れ、開発や生産の協業先となる中国タイヤメーカーを見つけました。業務

提携後、柴田さんは低価格なドリフト用タイヤとR31スカイラインにフィットするタイヤの開発に着手。試作を重ね製造にこぎつけた自社製タイヤは、当初の予定通り、主にドリフト練習用として使用していましたが、参戦していたドリフト競技でサポートを受けていたタイヤメーカーが競技から撤退することになり、レース本戦で勝てるタイヤの開発に改めて取り組むとともに、令和3(2021)年から「SHIBATIRE」のブランドを冠し、本格的に一般向けのタイヤ販売を開始しました。

現在はドリフト以外のカテゴリーにも適したレース用タイヤや一般車に装着できるノーマルタイヤ、スタッドレスタイヤも販売。タイヤ事業の年商は15億円台まで

ここがすごい！

柴田自動車では、サイズ、コンパウンド、トレッドパターンが異なる500種のタイヤを常時、生産・供給しています。古い自動車で主流だった、12インチ、13インチといった小径のスポーツタイヤも数多くそろえ、旧車ファンのニーズにも応えています。本社近接地に設けられているバックヤード(写真)には、大量のタイヤが整然と積み上げられ、圧巻です。



こぶし会のいいところ (柴田さん談)

- 学生時代の友人と旧交を温められる
- さまざまなものづくりの体験談を聞くことができる
- 幅広い事業分野の同窓生と協業の相談ができる

- 1 柴田自動車が運営するR31スカイライン専門ショップ「R31HOUSE」
- 2 若手従業員がラジコンカーの部品・パーツの設計を行う
- 3 「D1グランプリ」への参戦など、モータースポーツ活動にも熱心に取り組む



伸び、国内5社目のタイヤメーカーとして頭角を現してきています。

リーマンショックを機に 事業多角化へ

タイヤ事業を無事、軌道に乗せた感のある柴田さんですが、過去には景気の後退に苦しめられたことがあり、これが車の整備・販売以外の事業に取り組むきっかけとなりました。

柴田さんは金沢工業大学卒業の2年後、R31スカイラインの専門ショップ「R31HOUSE」をまだ父親が経営していた柴田自動車の隣接地に創業し、経営は順風満帆に推移しました。機械工学科の研究室でネジやナットといった金属部品の強度や形状を研究対象にしていた柴田さんは、メーカーで欠品となったR31スカイライン用部

品を自ら製作し、ユーザーからは厚い信頼を寄せられました。

ところが平成20(2008)年のリーマン・ショックで状況が一変します。「趣味性が高く、当時既に旧車の部類に入っていたR31スカイラインの販売がふるわなくなったほか、車検・整備の売上を見込めていた既存客が相次いでR31スカイラインを手放すようになり、事業の行く末に不安を感じました」(柴田さん)。

そこで柴田さんは、新たな収益源となるビジネスとして、ラジコンカーの競技場の開設と企画・運営に挑戦します。ショップの敷地内に、当時流行していたドリフト走行可能なラジコンカーのコースを整備したほか、大会も主催。さらに、自社製ラジコンカーの製造・販売にも乗り出しました。

「R31スカイラインの部品などもそうですが、ラジコンカーをゼロから設計し、造り上

げる上で、大学で身につけたCAD、金属加工機械の知識、スキルが大いに役立ちました」(柴田さん)。ドリフトラジコンカーのレースにも自社製品で出場し、平成21(2009)年から3連覇を達成。知名度アップを追い風に、本体のほか、多種多様なパーツの販売も右肩上がりとなり、不況を克服する収益の柱となりました。

柴田さんがドリフトラジコンカーのレースで起用していたドライバーがやがて、柴田自動車に入社し、実車でレース活動を開始。タイヤ製造につながっていきました。

「大学での4年間の学びは、私の後の人生の中で生きることばかりでした。機械を学べば未来が変わるということの仕事の中で実感する機会が数多く、有意義な期間を過ごせたことに感謝しています」と、取材の最後、柴田さんは母校への思いを笑顔で語ってくれました。

学生時代の思い出

大学在学中は、学業の傍ら、扇が丘キャンパス近くにあるフィットネスクラブでスイミング・インストラクターをアルバイトで務め、学業との両立のため、忙しい毎日を送っていたそうです。

4年次には機械工学科の堀隆一研究室に所属していました。ネジやボルトなど機械部品の摩擦や摩耗、耐久性を研究し、特許技術の開発にも携わりました。大学院に進めば学

会での発表のチャンスもあったそうですが、進学か卒業か、3月のギリギリまで決まらなかったそうです。最終的には家業の自動車整備工場で働くことを決意し、卒業の道を選びました。

ただ、研究室で学んだ摩擦・摩耗に関する知見は実業の世界に入って以降、例えば、ラジコンカーのギア製作にも生かされ、タイヤなど現在取り組む事業にも役立っています。



石川支部

やまだ のりこさん

本名:水田(旧姓:山田) 憲子

[大学:建築・平成10年卒]
あとりいえ。代表



町家に息吹を吹き込み、 次世代へとつなぐ建築士

「この家が好き」と 住む人に思ってもらいたい

建築士のやまだのりこさんは、長年にわたり町家の改修に情熱を注いできました。金沢市内の旧北国街道沿いに佇む「高木屋金物店」はその一例で、築100年以上の町家を再整備しました。

道路に面したサッシを木の格子戸へ、建物内部は漆喰塗りの白壁に改修し、吹き抜け梁は質感が際立つようライトアップできるようにしました。物置になっていた和室は金沢らしい朱色の壁を生かした茶室に、洋室は工芸品を展示するギャラリースペースにリニューアル。さらに、蔵に眠っ

ていた長持やたんすを商品の陳列台として再利用し、その上には、全国から取り寄せた鍋や包丁など、機能的で洗練されたデザインのアイテムを並べています。

この町家は平成31(2019)年に第41回金沢都市美文化賞を受賞しました。

リニューアルは約10年かけて段階的に進められ、そのたびに客層も広がりました。「古い家屋に興味があるという若い方が訪れることが増えました。自分の店にこんな魅力があるとは知らなかった」と、店主の高木猛さん。やまださんは「町家改修の醍醐味は、住む人に『以前よりも自分の家が好きになった』と思ってもらうこと。高木さんに喜んでいただけたことが何よりも

うれしいです」と目を細めます。

古い家の価値を 多くの人と分かち合う

町家への関心が芽生えたのは、金沢工業大学の建築学科で学んでいた頃。ある授業で取り上げられた建物の間取り図が、生まれ育った加賀市の実家とそっくりだったそうです。町家と呼ばれ、伝統的な価値があることもその時に初めて知りました。「それまでは暗くて寒く、プライバシーも確保しづらい実家に良い印象はありませんでしたが、見直すきっかけになりました」と言います。

大学卒業後、設計事務所に勤務していた

ここがすごい!

やまださんは、材木町の事務所の周りがある2つの空き家を改修しました。それぞれ「夜の図書館ベール」「夜の図書館もーり」という名でコミュニティ拠点として活用され、古い家ならではの魅力を訪れる人に伝えています。このうち「もーり」は、金沢工業大学を卒業した建築士、毛利公晟さん(写真右、大学・建築デザイン・平成28年卒)が館長を務め、地域住民の交流の場を積極的に作っています。



こぶし会のいいところ (やまださん談)

- 他業種の同窓生と情報交換ができる
- 世代を超えた交流で刺激を得られる
- 旧友や恩師と楽しい時間を過ごせる

- ① 高木屋金物店の次の改修プランについて打ち合わせをするやまださん
- ② ライトアップされた梁が特徴的な高木屋金物店の吹き抜け
- ③ おくりいえで、畳の拭き方を地域の年長者に学ぶ小学生



やまださんが、再び町家に目を向けるようになったのは平成21(2009)年。知人の隣家である古い町家が取り壊されると聞き、建築に携わる人間として何かできることはないかと考えました。そこで、家中を隅々まで掃除し、住む人の暮らしを長年守ってきたことに感謝するイベントを仲間と共に企画しました。

イベントの様子を見た地域住民から「こんなに素敵な家が近所にあるなんて知らなかった」と声をかけられ、活動が町家の良さを広く知ってもらうきっかけになると考えたやまださん。清掃活動に「おくりいえ」と名付け、県内外でこれまで60回以上実施しました。おくりいえを通じて自宅の価値を改めて見いだした所有者が、取り壊しを思いとどまるケースも多くなっています。

また最近では、地域の子どもたちがおくり

いえに参加することも増えています。ある小学校では、空き家問題を学ぶ総合学習の一環として6年生が体験しました。「最初は『怖い』『汚い』と抵抗感を抱いていた子どもたちが、おくりいえを通じてその独自の魅力に気づき、地域にアピールするイベントを企画してくれました。見慣れない建物が子どもたちにとって新鮮で刺激的だったようです」とやまださんは語ります。

古き良き建物が 受け継がれるまちに

平成22(2010)年、やまださんは町家改修や空き家活用を専門とする設計事務所「あとりいえ。」を設立しました。施主との丁寧な打ち合わせを通じて、想いを形にすることを重視しています。

ちなみに、仕事を進めるにあたり、よく協力を仰ぐ工務店の担当者は、金沢工業大学の同級生だそうです。「信頼して仕事を頼める、欠かせないパートナーです」と話します。

やまださんの理想は、おくりいえや改修を通じて、町家を保存・活用する機運が広がっていくことです。金沢市内の町家の取り壊し件数は15年ほど前まで年間270件に上りましたが、平成22(2010)年度にスタートした金沢市の「金澤町家再生活用事業補助金」や、町家の継承、活用に取り組むNPO法人金澤町家研究会の活動も相まって、現在は年間100件にまで減少しています。

手応えを感じるやまださんは「古き良き建物を次世代に残していくために、これからも長く活動を続けたい」と、未来を見据えています。

学生時代の思い出

建築学科を選んだ理由は、「合格できたのがこの学科だけだったから」と意外な答え。建築の奥深さに魅了されたのは入学後だそうです。

所属していたゼミは水野一郎研究室。「水野先生からは『ダイナミックな建築を作れ』と言われ続けました。その言葉は、無意識のうちに私の仕事の根底に息づいていると思います」。高木屋金物店の蔵にあった長持やたんすを商品陳列台として活用する大胆な発想も、恩師の教えがあっ

こそ生まれたのかもしれませんが。現在は、非常勤講師として金沢工業大学の教壇に立ち、設計製図の基礎を次世代に伝えています。

大学時代の部活動はテニス部でした。当時、男子部しかなかったテニス部に女子部を創設したメンバーの1人です。4人からスタートし、大会で上位入賞を果たすまでに部を成長させました。「この経験を通して、体力と精神力が鍛えられました」と振り返ります。



「学園に少しでも恩返ししたい」と語る松田会長

学園へのサポート強化

同窓会の活動を活発に

こぶし会全国支部代表者会議が令和6(2024)年10月19日、金沢工業大学8号館で開催され、こぶし会役員や全国の支部代表者らが出席し、魅力ある同窓会活動を通じて学園を支援していくことを確認しました。

会議では、松田真一会長(大学・情報・昭和50年卒)が「令和6年能登半島地震の被災者に対し、心からお見舞い申し上げる。今般、私立大学の経営が厳しいものがあり、同窓会としてもできるだけ支援、協力をしたい」と挨拶しました。泉屋吉郎理事長(高専・電気・昭和43年卒、大学・電気・昭和45年卒)は「経営環境は決して安心できる状況にはなく、学生の女性比率を従来よりも高めていきたい」と述べました。

この後、こぶし会支部委員長の中橋勝美さん(保二会・附属高・昭和41年卒)を議長に選び、令和5(2023)年度事業報告と令和6(2024)年度事業計画が報告されました。

引き続き、各支部からの意見を議論しました。会員への連絡手段・情報発信の検討では、兵庫支部の黒瀬将一支部長(大学・機械システム・平成2年卒)

が「ネットのサービスを使ってアドレスを効率的に収集するツールもある」と紹介しました。

若い世代の参加を高める方策については、札幌支部の菅原吉孝支部長が(大学・建築・昭和55年卒)が「若者に来てほしいと言われても、何をやるのか分からないのではないかと。先輩の仕事内容を明記して発信してはどうか」と指摘しました。

各支部からの意見として、徳島支部の「遍路道ウォークの開催」、茨城支部の「支部総会と懇親会は別々に参加可能」、岩手、静岡、岡山支部の「SNSのグループチャットで情報共有」などがあり、実のある会議となりました。

懇親会では、今年度で退任する浅野喜秀秋田支部長(大学・土木・昭和51年卒)が乾杯の音頭を取り、賑やかな時間を過ごしました。



全国支部代表者会議を終えて

中橋勝美 支部委員長

現代の若者は一人一人が独自の価値観を持ち、帰属意識と幸福度を高めることに喜びを感じるようになりました。このような時代にあって、こぶし会も新たな進化が必要です。例えば活動内容が分かる先輩のセミナーや講演会、ユニークな会社運営や地域イベントの取り組み、ビジネスマッチングなど数多くの工夫に挑戦しましょう。

①「能登に住む学生には授業料を半額免除している」という泉屋理事長 ②「支部総会の維持が目的ではなく、同窓会活動につながるよう目的を共有すべき」と話す勝又宏幸静岡支部長(大学・建築・平成2年卒) ③「メールを用いると会員からの返信率が13パーセントだった。今後、返信率が上がってくると感じている」と報告する香田祐毅東京支部長(大学・建築・平成21年卒)

令和6(2024)年度
支部総会が全国各地で
開催されました



青森支部



道東支部



札幌支部



秋田支部



山形支部



福島支部



茨城支部



栃木支部



山梨支部



富山支部



岐阜支部(岐阜)



岐阜支部(高山)



京都支部



岡山支部



鳥取支部



愛媛支部



宮崎支部

[開催日程]

4月

27日(土) 石川支部

6月

1日(土) 札幌支部

29日(土) 秋田支部

7月

5日(金) 岡山支部

6日(土) 栃木支部

鳥取支部

広島支部

12日(金) 青森支部

13日(土) 富山支部

岐阜支部(岐阜)

20日(土) 愛媛支部

福岡支部・佐賀支部合同

21日(日) 新潟支部

27日(土) 道東支部

岐阜支部(高山)

徳島支部

宮崎支部

8月

10日(土) 福島支部

茨城支部

17日(土) 岩手支部

31日(土) 京都支部(京都)

9月

7日(土) 香川支部

21日(土) 愛知支部(名古屋)

28日(土) 山梨支部

島根支部

30日(月) 長崎支部

10月

5日(土) 愛知支部(豊橋)

26日(土) 静岡支部(静岡)

11月

9日(土) 山形支部

16日(土) 京都支部(福知山)

24日(日) 大阪支部

告知 支部総会のお知らせ

- 沖縄支部／ホテルサンパレス球陽館
令和7(2025)年1月18日(土) 18:00
- 兵庫支部／和ダイニング三日潮
令和7(2025)年1月25日(土) 17:00
- 石川支部／ANAホリデイ・イン金沢スカイ
令和7(2025)年4月26日(土) 17:00

■ 新支部長紹介



岩手支部
佐藤 光寿氏
(大学・経営・平成元年卒)



新潟支部
中村 和彦氏
(大学・土木・昭和52年卒)



徳島支部
林 貴子氏
(大学・電気・平成10年卒)

ほじかい
 保二会

北陸電波学校・北陸電波専門学校・
 北陸電波高等高校・金沢工業大学附属高等学校

イベントで親睦深める

「同窓のつどい」「文化講座」

笑顔あふれた会に

「同窓のつどい」が令和6(2024)年9月1日、卒業生34名が出席して金沢市のANAホリデイ・イン金沢スカイで開かれ、懐かしい仲間と旧交を深めました。

最初に中野忠史会長(電波高・昭和38年卒)が「学生時代に進取の精神を身につけたことが私たちの人生を支えてきた」と挨拶し、神亮一相談役(電波高・昭和37年卒)、松田真一こぶし会会長(大学・情報・昭和50年卒)が祝辞を述べました。懇親会では参加者たちが旧友との学生時代の思い出や近況を話し、笑顔にあふれた会となりました。



同窓のつどいに参加した皆さん

旧軍港都市の歴史遺産たどる

文化講座は令和6(2024)年7月7日、京都府舞鶴市の海上自衛隊舞鶴地方隊で行われ、会員18名が旧軍港都市の歴史遺産に触れました。一行は、昭和8(1933)年に建てられた海軍記念館を訪れ、旧海軍にまつわる記念品や書籍などの資料約200点に目を凝らしました。続いて舞鶴地方総監部会議所(東郷邸)に足を伸ばし、名将とうたわれた東郷平八郎氏のプライベートな時間に思いを馳せました。



旧軍港都市の歴史遺産たどる

高専同窓会

金沢工業高等専門学校、
 国際高等専門学校

金沢の建築文化は重層的

第18回金沢歴史探訪

第18回金沢歴史探訪は令和6(2024)年6月8日、金沢市の金沢歌劇座で開かれ、会員10名が金沢城公園の復元整備に向けた取り組みの進捗よく状況の説明を受けました。

はじめに、石川県公園緑地課金沢二の丸御殿復元整備推進室課長の藤村秀人さんが、金沢城は「鉛瓦葺屋根で白漆喰総塗籠であることが特徴である」とし、ヨーロッパが縦を意識したデザインであるのに対し、金沢城は横を強調しているとしました。二の丸御殿については、実際の政務の場として城の中核を占めて

おり、復元では「表向」と呼ばれる玄関付近から復元を進めて行く予定です。

続いて、金沢城公園に足を伸ばした一行は、石川門の内部を見学した後、鶴の丸休憩所で二の丸御殿のVR映像を視聴し、前田家の美の精神に触れました。また、橋爪門では、敵を撃退できるような桁形の形状になっていることに感心しました。最後に玉泉院丸庭園を訪れ、5代綱紀の時代につくられた色紙短冊積石垣の美しさに目を凝らしました。



金沢城の魅力的な建造物について学びました



復元予定の二の丸御殿のパース図

金沢高専電気工学科昭和49年卒
 50周年記念同窓会が開催されました
 令和6(2024)年9月20日



機扇会

機械工学科・機械システム工学科・物質応用工学科・先端材料工学科・
物質システム工学科・ロボティクス学科・航空システム工学科

交流会に18名が参加

ホームカミングデー併せて開催

KITホームカミングデーに併せた交流会が令和6(2024)年10月19日に開催され、会員および教職員を含め18名が参加して親交を深めました。

卒業してから50年が経つ先輩の方々は「自分たちが在学していた時代にはこんなことがあった」「大学周辺の景色が一変しているが、この辺りは面影がある」など、それぞれの思い出話を花を咲かせていました。

卒業50年の参加者以外は2名の参加でした。このイベントは50周年を祝う会のようになっておりますが、卒業40年、30年、20年、10年などの記念の年にぜひ大学を訪れてみてください。特に、卒研の先生が在学中にぜひお越しください。



思い出を振り返りながら楽しい時間を過ごしました

琥睦会

電気工学科・電子工学科・電気電子工学科・情報通信工学科・電子情報通信工学科

50周年の節目に気持ち新た

総会・記念式典・記念講演会・懇親会

琥睦会の総会・結成50周年記念式典・記念講演会・懇親会は令和6(2024)年5月18日に行われ、約60人が激動の時代を乗り越えてきた50年を振り返りました。

総会では、吉井源治会長(大学・電子・平成5年卒)が「バーチャルな時代

であるほど、現実の交流が大事になってくる」と挨拶し、令和5(2023)年度事業報告ならびに令和6(2024)年度事業計画を承認しました。

記念式典では、黒田壽二学園長・琥睦会名誉会長(保二会・電波専・昭和35年卒、大学・電気・昭和44年卒)が



次の100年に向けて50年を振り返る会員ら

「卒業生の皆さんのおかげで金沢工科大学園は社会に認められるようになった」と挨拶し、泉屋吉郎理事長(高専・電気・昭和43年卒、大学・電気・昭和45年卒)、松田真一こぶし会会長(大学・情報・昭和50年卒)、古橋孝実大学同窓会会長(大学・建築・平成8年卒)が祝辞を述べました。

河本崇氏(大学・電子・平成2年卒)が「私の生き方・考え方」と題して記念講演した後、懇親会場に場所を移し、木村順一さん(大学・電気・昭和44年卒)の発声で乾杯しました。出席者からは「これからも琥睦会をみんなで盛り上げていきたい」との声が聞かれ、会員の結束力が高まった一日となりました。



懇親会に参加された皆さん

告知



講演

武市祥司教授

令和7(2025)年 1月18日(土) 10:30～
第44回冬の異業種交流会

経営工学科から経営情報学科へ、 そして情報デザイン学部へ。

～59年目の経営工学科の過去から現在、そして未来～

参加無料

会場: こぶし会多目的ホール (対面とオンライン併用のハイフレックス型式)

第44回冬の異業種交流会は令和7(2025)年1月18日、こぶし会多目的ホールで開催します。今回は金沢工業大学経営情報学科の武市祥司教授が講演予定です。こぶし会会員の方ならどなたでも参加できますので、経工会およびこぶし会ウェブサイトからお申し込みください。



経工会

地元の企業、求職者に寄り添う

第43回夏の異業種交流会

第43回夏の異業種交流会は令和6(2024)年8月17日、こぶし会多目的ホールで開かれ、株式会社ワイズ専務の堀敬太氏(大学・経営・平成9年卒)が「人材サービスの歴史と現状」と題して講演しました。

講演ではまず、堀氏は「人材派遣業

の歴史と現状」を取り上げ、派遣法の施行以降の人材サービスの変遷に触れた上で、日本の人口減少社会が人材サービスにどのように影響するかについて説明しました。

また、自社が提供する人材サービスについては、外国人就業支援や官公

庁の委託・連携、大学関係における就職支援・産学連携の事業展開を紹介しました。最後に、堀氏は「地元の企業・求職者に寄り添ったサービスを提供していく」と結びました。

旧友や恩師と交流

恩師迎え和やかに

扇翔会では、工大祭期間中の令和6(2024)年10月19日に開催された「KITホームカミングデー」に合わせて懇親会を実施しました。

最初に情報工学科の阿部倫之先生(大学・情報・昭和59年卒)、メディア情報学科の根岸一平先生に各学科の近況を報告いただきました。来年度から学部学科の改組が行われ、従来の「情報工学科」に加えて、人工知能やデータサイエンスに関する技術を活用し新たな社会を創造する人材の育成を目指す、「知

能情報システム学科」が加わる形となるとのお話がありました。

懇親会には教員を含め、総勢11名の参加があり、久しぶりに再会した旧友や恩師への近況報告を行い、楽しい時間がすぐに過ぎていきました。

最後に加原智彦会長(大学・情報・平成7年卒)から「来年度は3年に1度の総会と懇親会を実施する年となります。今年と同様に学園祭に合わせて実施する予定ですので、皆さまの参加を



懇親会で盛り上がった皆さん

お待ちしております」と挨拶があり、閉会しました。

卒業生の皆さまの参加を心よりお待ちしております。

つみきかい
積木会

建築学科・居住環境学科・建築都市デザイン学科・建築デザイン学科

47周年同窓会「宴」で新たな絆

水野一郎研究室

47周年同窓会「宴」が令和6(2024)年7月12日、山代温泉みやびの宿「加賀百万石」で盛大に開催され、第1期から第33期までの同窓生180名以上が全国から集いました。

今回、水野一郎先生が令和5年秋の

叙勲で「旭日双光章」を受章し、金沢市民芸術村のJIA25年賞の受賞の榮譽を祝うとともに、今年度での退職を記念して開かれました。

会では、各地で活躍する同窓生の発表会から始まりました。続いて水野先生

が33年間のゼミ活動を振り返り、「自分らしさを築く人生」について心温まるお話があり、会場全体が感動に包まれました。

夕方からは宴会が催され、久しぶりの再会に酒を酌み交わし、和やかに語り合いました。水野先生の「大人になった諸君の笑顔や声に出会いたい」という想いから、一人ひとりがスピーチを行い、懐かしいエピソードや現在の活躍が次々に披露されました。その一つひとつが思い出と新たな絆を深める瞬間となりました。

締めくくりには、研究室全員の幸せを祈念して、鳳凰の羽をあしらった手ぬぐいが参加者一人ひとりの手から舞い、歓声と感動に包まれながら盛会のうちに幕を閉じました。



水野先生への感謝の気持ちがあふれていました

会報こぶしとこぶし会ウェブサイトで2問を出題

クイズの学園 VOL 26

会報こぶしとこぶし会ウェブサイトが連動して、クイズを出題します。応募するにはそれぞれの答えが必要ですので、注意してください。

第1問 会報こぶし(75号)からの出題

KIT●●教育

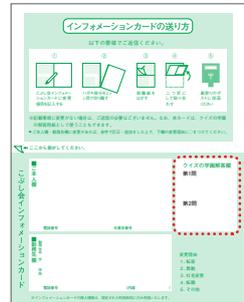
誌面の中から当てはまる言葉を探してください。

第2問は **こぶし会ウェブサイト** で出題 →



■ 応募方法

同封しているインフォメーションカードに、会報こぶしとこぶし会ウェブサイトを出題されたクイズの答え2つを記入してお送りください。正解者の中から抽選で20名の方に3,000円分の図書カードをお送りします。なお、当選者の発表は賞品の発送を持って代えさせていただきます。



■ 締切

令和7(2025)年4月3日(木)当日必着

■ 発表

正解は令和7(2025)年4月7日(月)にこぶし会ウェブサイト上で発表します。

こぶし会

検索

高校から大学入学まで

KIT入学教育でサポート

金沢工業大学は開学以来、社会で活躍する人材育成のため、先進的な教育を実践してきました。その一つが高大接続プログラム「KIT入学教育」です。高校から大学に入学するまでの期間を支援することで、学生が大学で目標を持って学習に取り組める環境を整えています。



「KITステップアップ講座」ではオンラインで先輩在学生と交流できる

KITが学生の力を伸ばす教育プログラムとして重視しているのがKIT入学教育です。近年は理系だけでなく、多様な学びを収めた入学者が増加傾向にあります。また、本学のカリキュラムの中心である理工系の学問領域が拡大していることも背景に、高校までに学んだ基礎知識を円滑に大学での学びに移行できるよう令和3（2021）年にスタートしました。

具体的には、数理系の基礎科目や専門科目を入学前にオンラインで学べる環境を整備しているほか、先輩在学

生との座談会やキャリアデザイン講座を通して自身の将来像や関心のある分野をイメージしてもらう機会を設けるようにしています。

KIT入学教育は、学生が理工系の高度な専門分野の学習・研究に集中できる土台作りをするだけでなく、高校から大学、そして社会へと続く一貫した学習の道筋を示す重要な役割を担っています。

KIT入学教育プログラム(オンライン)

授業体験

高校生対象（通年）

金沢工業大学の1年次に開講される授業、各学科の専門基礎となる授業などを受講でき、大学での学び、専門の学びに先んじて触れることができます。

ステップアップ講座

合格者対象 [12月～翌3月]

先輩在学生やクラスメイトになる仲間との交流を通して、金沢工業大学でどのように成長していくかを考えていく授業です。



高校時代の振り返りや各プログラムでの学びを書き込める「KIT入学教育ノート」

受験生

大学合格～入学前

大学生



自宅で動画を見ながら学ぶことができます

先取り科目

入学予定者対象 [1月～3月]

入学前に数理系の基礎科目や専門科目をオンデマンドで開講します。入学後、その科目の単位認定を行います。

直前集中講座

入学予定者対象 [3月]

「ICT講座」「文章の書き方講座」を実施します。入学後に使用するパソコンやソフトの使い方を知り、入学後の学びに備えます。

夢や目標に向かって 学ぶ意欲を育む

副学長 青木 隆 氏



KIT入学教育で最も力を入れているのは、学生一人ひとりが「大学で学ぶ意義」や「将来の夢」を見つめ直す機会を提供することです。高校生が先輩在学生と交流できる場や、在学生が4年間の学びの成果を発表する「ステークホルダー交流会」(動画配信)といったプログラムに参加し、自身のロールモデルとなるような先輩を見つけてもらいます。これは、大学で何を学ぶのかを知るうえで大切なプロセスだと考えています。

また、基礎学力を培い、入学後のつまづきを減らしてもらうため、今年5月から高校生～大学2年生レベルの数学をYouTube動画で学べる「KIT STEMナビゲーション」を開始しました。これは、昭和52(1977)年に本学が開始したCAI(コンピュータ支援教育)を現代の学生の学習スタイルに合わせて進化させたものです。

金沢工業大学は、全国2,000校の進路指導教諭が選ぶ「生徒を伸ばしてくれる大学ランキング」で、常に高評価を得ています。これは、学生一人ひとりの個性と能力を引き出し、自ら学び続ける姿勢を育む教育環境を時代に合わせて進化させてきたことへの評価と自負しています。

令和7(2025)年度から KITの奨学金制度が拡充

金沢工業大学は2025年度から奨学金制度を拡充します。国立大学並みの学費で学べる従来の「特別奨学生制度」に加えて、理工系分野への女子の進学を支援する「女子奨学生制度」と地方出身者の学びを支援する「都道府県選抜奨学生制度」を新設しました。

女子奨学生制度

対象
総合選抜(女子奨学生)で合格し、入学した方全員

給付額
年額25万円 ※原則4年間

募集人数
36名(女子)

都道府県選抜奨学生制度

対象
都道府県選抜試験で合格し、入学した方全員

給付額
年額25万円 ※原則4年間

募集人数
94名(男子:47名 女子:47名)

「文理探究」の学部を新設

金沢工業大学は令和7(2025)年4月、6学部17学科体制へと進化します。新設する情報デザイン学部とメディア情報学部では「文理探究」を掲げ、複雑化する社会課題に対し、従来の枠組みを超えたアプローチで解決策を生み出す人材の育成を目指します。

令和7(2025)年度からの学部・学科構成

情報デザイン学部	経営情報学科	環境デザイン創成学科	
メディア情報学部	メディア情報学科	心理情報デザイン学科	
情報理工学部	情報工学科	知能情報システム学科	ロボティクス学科
バイオ・化学部	環境・応用化学科		生命・応用バイオ学科
工学部	機械工学科	先進機械システム工学科	航空宇宙工学科
	電気エネルギーシステム工学科	電子情報システム工学科	環境土木工学科
建築学部	建築学科	建築デザイン学科	

久しぶりの母校を懐かしむ

工大祭・高専祭に併せたホームカミングデーは、令和6(2024)年10月19日に金沢工業大学と国際高等専門学校でそれぞれ行われました。

金沢工業大学

KIT ホームカミングデーは 21 号館で開かれました。はじめに、大澤敏学長が「学生時代の思い出はいつまでも色褪せることはありません。短い時間ながらも共に学んだ仲間や教職員との再会を楽しんでほしい」と挨拶。卒業生は学科ごとに分かれ、互いの近況や学生時代の思い出話に花を咲かせました。



高山 俊一さん
機械・昭和 50 年卒

石川名誉学長に感謝

父が自動車修理の会社を経営しており、商業高校から入学した私を指導していただいた石川憲一名誉学長には、随分お世話になったと感謝しています。柔道の湊谷弘先生に投げられたのは良い思い出です。私が学んだ場所に戻ってきて時間の流れを感じますね。



西川 幸洋さん
経営・昭和 50 年卒

マーケティングが役に立った

大学に訪れたのは久しぶりで、その変貌ぶりには目を見張ります。心理学のマーケティングで消費者行動を学んだのは、印刷会社に入社してから大いに役立ちました。世界は激変の時代を迎えており、印刷業界に新しい人材を送り出してほしいと思っています。



香田 祐毅さん
建築・平成 21 年卒

子どもたちが母校に入学を

治信と彩希を連れて、家族全員で来たのは 2 年連続です。恩師に会えるので楽しみにしています。個性あふれた教授陣に鍛えられたおかげで、現在の自分たちがあるのだと思っています。子どもたちの誰か一人でも母校に入ってくれたらうれしいですね。



安藤 悠紀さん
情報・平成 26 年卒

大学の枠を超えて交流

学友会のイーグル・セーフティ・プロジェクト・チームに所属し、夜間の野々市市の街頭パトロールをしたのが思い出されます。保育園のボランティアでは、大学の枠を超えて地域の子どもたちと触れあいました。もっと金沢工業大学が全国に知られればと思います。

紗希さん
心理情報・平成 27 年卒

国際高等専門学校

国際高専ホームカミングデーは金沢キャンパスで行われ、卒業生 25 人が次々と会場を訪れました。久しぶりに顔を合わせた仲間と卒業アルバムを見ながら、当時の記憶を思い出していました。会場では野中正樹金沢国際高専同窓会会長(機械・昭和 49 年卒)らが卒業生を出迎えました。



大慈彌 明星さん
(旧姓・山田)
機械・平成 21 年卒

教室の変わりように驚き

外観は一緒なのに、教室は改装されて全く違うことに驚いています。イベントを楽しみに一緒に高専祭に来てくれた子どもたちは、アルバムの中の私と現在の私との違いを面白がっていたようです。ハンズオン部だったので、白山麓キャンパスの設備がうらやましいですね。



訪れた卒業生と懇談する金沢国際高専同窓会のメンバー



南戸 仁美さん
電気・平成 13 年卒

今の国際高専は魅力的

父親が卒業生でしたので、小さなころから親しみがあり、外国に留学できるので進学しました。バスケットボール部でマネージャーをしていて、いろんなところで遠征できたのが良い思い出です。今からでも入りたいほど、国際高専は魅力的ですね。

お馴染みの こぶし祭 10月20日(日) 開催!

こぶし会の秋の風物詩と言えば「こぶし祭」! 昨年からイベントが復活し、スタンプラリーや保二亭、こぶし庵のほか、今年は演芸が加わりました。令和6(2024)年10月20日に開催されたこぶし祭には、こぶし会会員も地域の方たちにも笑顔があふれました。



スタンプラリー

上位に当選した人たちは
喜びにあふれていました



ぐるりと回して玉が出る瞬間に注目!

ガラポンを回す手に力込め

昨年、好評を博したスタンプラリーが帰ってきました。今年は少しでも扇が丘キャンパスを巡ってもらおうと、スタンプの場所を3つから4つへと増しました。家族連れや友達同士がこぞって参加し。なかなか出ない金色の玉が出ると、「1等!」のかけ声とともにハンドベルが鳴り、当選者がとびきりの笑顔が弾けました。



こぶし庵

まろやかな コーヒーでひと休み



7号館のこぶし祭本部では、お休み処「こぶし庵」で来場者をもてなしました。ガラポンを回した後、いれたてのコーヒーを飲みながら、テーブルでひと休みの姿も見られました。



話し込むにはびったりの空間でした

保二亭

抹茶と和菓子で おもてなし



「くつろぎ処 保二亭」では、裏千家淡交会正教授の山本茂さん(保二会・附属高・昭和47年卒)の協力で、和菓子と抹茶を提供し、一期一会のおもてなしが喜ばれました。



一服が心を癒やしてくれました

こぶし会演芸

ウクレレを弾きながらぼけを繰り出すひろき

熟練の技術で笑いの渦に



こぶし会演芸では、ウクレレ漫談のひろきとコンビ歴58年のおぼん・こぼんが会場を爆笑させました。ひろきは妻に家族旅行に行こうと言ったら「あなたがいないところならどこでもいい」といった自虐ネタを次々と披露。また、おぼん・こぼんは、「金沢はきれいな人が多いので漫才しながら目の保養ができると喜んでいただけました」など巧みな話術で会場を沸かせ、得意の楽器演奏と歌でも拍手が送られました。



軽妙な語り口で観客を魅了するおぼん・こぼん。会場は立ち見が出るほど超満員で笑い声が絶えませんでした



15人に感謝の品を贈呈

金沢工業大学の卒業50年セレモニーは令和6(2024)年10月19日、21号館で開かれ、社会での活躍によって大学の名声を高めてきた卒業生15人に記念品を贈呈しました。セレモニーでは、大澤敏学長が「卒業生の皆さんが歩んだ道が金沢工業大学の発展につながった」と挨拶し、卒業生一人一人に感謝の品を手渡しました。

出席者からのメッセージ



林 一正さん (機械工学科)

卒業してもバックアップしてくれる体制が整っており、ライブラリーセンターを活用していました。全国的に有名になった母校がこれからも飛躍していくことを願ってやみません。



脇坂 美樹雄さん (経営工学科)

元マイクロソフトCEOのビル・ゲイツよりも先にコンピューターに触り、最先端の技術に近づくことができました。学生の活躍する姿が見られる「物語の始まりへ」が楽しみです。



松田 真一さん (情報処理工学科)

同窓会活動に参加しています。50年という年月の中で、同級生だけでなくいろんな世代の友人ができました。そういう輪ができたのは、私の財産だと思っています。



早瀬 内海さん (土木工学科)

時の流れの早さを感じます。学生時代は空手同好会をつくり、北陸3県リーグ戦を発足させました。後輩には技術や知識を身につけ、人間として成長してほしいですね。



竹村 英光さん (機械工学科)

私の子どもも金沢工業大学に入学しました。子どもが入学した際に母校を訪れましたが、私の時とのキャンパスの違いに驚きました。優秀な学生が集まる大学になってほしいですね。



樋田(旧姓・山本)久則さん (電子工学科)

少林寺拳法のクラブを立ち上げ、北信越大会で優勝したのは良い思い出です。授業は難しかったので、友だちに助けってもらっていましたね。これからも学園を支援していきたいです。

第26回こぶし会ゴルフ大会 西出 伸也さんに栄冠!

(大学・経営・昭和57年卒)



第26回こぶし会ゴルフ大会は令和6(2024)年9月21日、石川県能美市の白山カントリー倶楽部で開かれ、会員ら61人がゴルフを通じて交流を深めました。個人の部では、西出伸也さんが初優勝を飾りました。

西出さん(写真左)の優勝コメント

山田茂一さん(大学・土木・昭和56年卒)に誘われて初めて参加しました。いきなり優勝できたのは出来過ぎです。メンバーに恵まれたと思います。来年もぜひ参加したいですね。

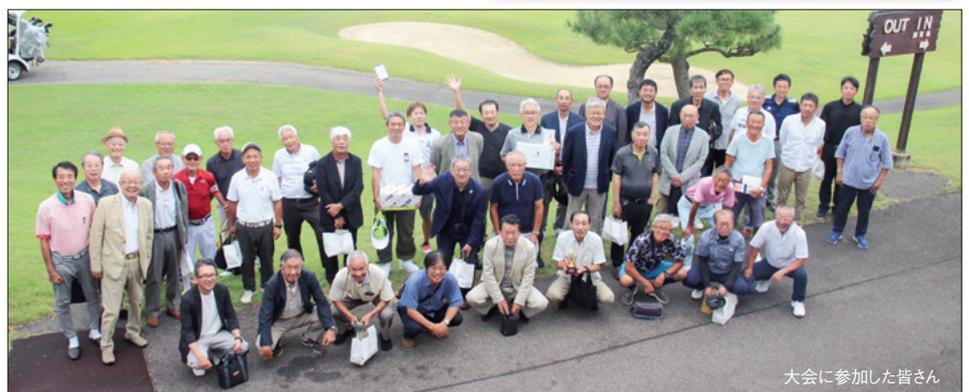


ネットの部

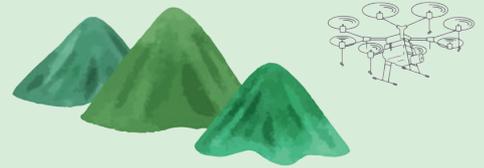
- 優勝 西出 伸也さん(大学・経営・昭和57年卒)
- 第2位 堀 賢治さん(大学・土木・昭和62年卒)
- 第3位 善田 善彦さん(大学・土木・昭和62年卒)

ベストグロス

- 佐野 梯弘さん(高専・機械・平成10年卒)



大会に参加した皆さん



伊藤教授がドローンの飛行原理から解説しました



手のひらに乗るほどの小さなドローンが空中を舞いました



イベントに参加した皆さん

大自然を感じ、ドローンの操縦学ぶ

サマーセッションin白山麓2024は令和6(2024)年7月27日、28日、国際高等専門学校白山麓キャンパスおよび瀬女コテージ村で行われました。

イベントでは、ドローンの操縦に挑戦し、金沢工業大学ロボティクス学科の伊藤恒平教授と学生3人(西本拓未さん、森永裕稀さん、伊藤大輝さん)が指導に当たりました。

参加者はドローンを初めて操縦する人が多く、最初は思い通りに動かず、苦戦する姿が見られましたが、短時間で

コツをつかんだ参加者もいました。最後は3組に分かれてドローンレースで競い合いました。翌日は白山麓キャンパスを見学し、学習環境が整った施設に感心していました。

参加した宮崎優さん(大学・応用バイオ・平成27年卒)は、「ヨット部に所属していた頃、穴水湾自然学苑で手伝いをしていたので、今回参加できてよかった」と話し、友人の西谷内誠さん(大学・機械・平成27年卒)は「ドローンが思っていたより楽しかった」と笑顔を見せました。

令和6年能登半島地震

義援金募集活動のお礼

この度の「令和6年能登半島地震」で被害を受けられた皆さま方、9月の大雨災害により被災された方々にお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

こぶし会では、被災された方々の支援と復興に役立てていただくため、令和6(2024)年3月14日から9月30日までの期間、義援金募集活動を実施いたしました。

多くの方々にご協力をいただき、お預かりさせていただいた義援金は671,520円に達しました。義援

金につきましては「石川県令和6年能登半島地震災害義援金」への送金を終えております。また、発生直後から各支部や会員が物心両面で独自の支援をされたようです。

こぶし会としましては、今後も復興に向けて支援を続けてまいりたいと思っております。被災地の皆さまが穏やかな日々を取り戻せるよう、一日も早い復旧・復興を願っております。

あらためて、この度の義援金活動へのご協力をいただきました皆さまへ心より感謝申し上げます。



こぶし会会長
松田 真一

能登半島激甚災害とこぶし会の支援活動

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。こぶし会会員の皆様には如何お過ごしでしょうか。旧年中は多大なるご支援を賜り厚く御礼申し上げますと共に、本年が希望あふれる一年になりますよう心からお祈り申し上げます。

ご高承のように令和6年の元日に発生したM7.6で震度7を伴う数千年に一度とも言われる「令和6年能登半島地震」に加えて、同年9月には今までに経験したこともない線状降水帯による豪雨が奥能登地方を集中的に襲いました。毎日、メディアが報道致しているように未だ地震による復旧・復興も道半ばの状況の中にあって、追い打ちを掛けたこの度の豪雨災害はライフラインを再度破壊することはもとより、地震とは異なり濁流によって押し流された大量の土砂や流木などが人々の生活を根底から破壊すると共に、精神的にも甚大な被害を齎しています。

このような激甚災害に対して、こぶし会は被災地の救援ボランティアに参加する学生の支援をはじめ、義援金の募集を行って参りました。また、本学園は長年に亘って「工学アカデミアの建設」を目指して鋭意活動を展開して参りましたことから、こぶし会会員の皆様の崇高なご寄付をこの度の100名を超える被災学生の支援に役立たせて戴いております。ここに、紙幅をお借りして心から感謝申し上げます。

次に既にご連絡致しましたように、令和5年度からご寄付戴いた法人並びに個人の方々のご芳志に添い、更に感謝の念を明確にするために寄付者銘板の複層化が行われました。それに伴い長年にわたる累積寄付金額が100万円に到達された西田康博氏(大学・電気・昭和52年卒)に感謝の意を表するために、令和6年7月、資金局の榎野氏と共に富山市のご自宅を訪問し、「特別功績顕彰」をお渡し致しました。西田氏のお話に拠りますと、富山県内や近県のこぶし会会員とそれぞれの総会等を通じてネットワークが形成され、こぶし会活動は仕事上も

大変有益であったとのことでした。ここで、西田氏は平成22年から富山支部長をお務め戴いており、併せて感謝申し上げます。参りました。

前会報74号に引き続いて令和6年4月1日～令和6年9月末日までに戴いたご支援やご協力に謝意を表するために、ご寄付を賜った皆様のご芳名を五十音順に下記のように掲載させていただきます。(敬称略)

寄付者名一覧

令和6年4月1日～令和6年9月末日
(敬称略・五十音順)

【大学同窓会】 青山伸一、青山孝、秋田谷孝浩、阿部海斗、新井真二、石川祐也、泉屋利明、泉屋吉郎、伊勢陽一、伊藤健、伊藤康紘、岩崎覚、岩本修介、植田治、宇佐見雄一、内田節、遠藤茂、大島正敬、太田隼也、大西和博、奥田敦司、奥野靖幸、尾崎崇史、金澤真太郎、金子智明、烏谷伸、川並真武、川向義朗、川本淳一、木崎秀人、北村和光、吉津邦弘、黒田壽二、楢形和紀、桑原章、古賀龍樹、小林勇輝、齊藤敏彦、酒井一平、酒井資明、坂野裕毅、坂本誠二、崎本優、志知正朗、柴田浩伸、渋谷享史、鈴木仁、千田努、千徳英一、多賀裕、高尾浩徳、滝澤俊、工慎一郎、橘守、谷口勝則、田村崇、辻純、辻政信、都倉泰信、長沢浩信、中嶋登、中田孝幸、仲田仁己、中田政之、中村信一、中屋雅行、並田和明、南部雅彦、西泰一、西桶信基、野口啓介、野村耕二、橋本賢三、長谷川久純、服部潔、比佐勝明、飛田憲一、樋田久則、百万光生、福田有哉、藤原和也、前田正英、松浦正人、松田貞

寄付者銘板掲載基準

	名称	法人・団体	個人
1	栄誉功労顕彰	30,000 万円以上	3,000 万円以上
2	特別功労顕彰	10,000 万円以上	1,000 万円以上
3	功労顕彰	5,000 万円以上	500 万円以上
4	特別功績顕彰	1,000 万円以上	100 万円以上
5	功績顕彰	100 万円以上	30 万円以上



石川 憲一

特別奨学事業寄付金募集委員長
金沢工業大学名誉学長

雄、松本正裕、水谷肇、宮坂智明、宮脇浩、村田洋子、森本喜一郎、安原卓、山岸敬広、山岸徹、山田昇、山本良二、吉沢潤也、米澤芳樹、脇坂美樹雄、渡辺悦史、昭和47年工大電子科入学者有志

【高専同窓会】 泉屋利吉、小中博之、刀祢利雄、野中正樹

【保二会】 浦敦、中村勝三
(全143名うち匿名希望37名)

【卒業生経営による企業】
(株)金沢柿田商店、コーセル(株)、小松パワートロン(株)、(株)コマテック、(株)滋賀山下、柴電気工事(株)、(株)成宏電機、(株)泰成商会、(株)高田組、タツタ電線(株)、(株)玉家建設、(株)西山装飾、松本建設(株)、(株)山岸建築設計事務所、(株)山岸設備設計事務所(全15社)

尚、令和6年度の寄付者に関しては、ご芳名を学園ウェブサイトにも掲載してありますので、ご参照下さい。

最後になりましたが、本学園は工学アカデミアの建設に今後も邁進致して参りますので、こぶし会会員の皆様方には一層のご理解とお力添えをお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

＜正会員＞	北村 義信 (保二会・電波高・S38)	平成 29 年	小西 勝三 (保二会・電波・S36)	7 月	中村 洋一 (大学・土木・H6)	渡辺 利行 (大学・機械・S49)		
	矢本 昭二 (保二会・電波高・S38)		7 月	宮川 高之 (保二会・電波専・S35)	8 月	塩屋 一海 (大学・土木・S51)		
	大田 実 (大学・経営・S47)	令和元年 12 月	徳川 行男 (保二会・電波専・S32)	9 月	高岡 哲哉 (大学・電子・S61)	3 月	浅井 明 (大学・経営・S54)	
	松岡 義和 (大学・土木・S63)	令和 3 年	山田 良永 (保二会・電波・S35)	10 月	木原 啓裕 (修士・バイ専攻・H25)		川原 秀之 (大学・経営・S57)	
	富岡 建明 (専攻科・機械専攻・S49)		7 月	前倉 敏之 (専攻科・建築専攻・S51)	11 月	若林 正樹 (専攻科・機械専攻・S51)	西川 外喜雄 (保二会・電波専・S32)	
	魚川 健治 (保二会・電波高・S37)			円井 正憲 (保二会・電波高・S37)	12 月	村本 史雄 (保二会・工大附・S43)	坪坂 良介 (大学・経営・S46)	
	桂田 清春 (大学・情報処理・S57)		9 月	木村 幸一 (大学・電気電子・H22)		笠原 伸弘 (大学・情報・H元)	当山 勇 (大学・電子・S52)	
	岸野 知生 (大学・電気・H8)	令和 4 年	福田 信一 (大学・機械・S52)	令和 6 年	藤井 徳明 (大学・電気・S49)	4 月	坂谷内 肇 (保二会・電波専・S37)	
	盛 俊二 (大学・経営・S57)		7 月	駒沢 博 (高専・電気・S48)	1 月	赤松 浩 (大学・経営・S52)	青木 昭憲 (大学・機械・H3)	
	小田中 尚 (大学・電気・S51)			藤井 徹 (大学・情報・H3)		井家 公俊 (専攻科・建築専攻・S53)	5 月	大坂 英雄 (大学・土木・S54)
	中村 誠 (大学・機械シス・H19)			白井 泰 (大学・機械・S62)		林 義夫 (保二会・電波専・S35)		松永 賢治 (大学・電気・S56)
	鈴木 一矢 (大学・土木・H元)		10 月	上出 邦夫 (大学・電気・S55)		前坪 修 (大学・機械・S48)		吉本 哲 (保二会・電波・S35)
	大久保 智 (大学・情報・H14)	令和 5 年	麻田 義雄 (保二会・電波・S36)		宮野 譲 (大学・電子・H3)		川邊 孝芳 (大学・土木・S53)	
	森 泰宏 (保二会・電波専・S38)			梅原 克彦 (大学・電子・S51)		山口 征男 (大学・土木・S46)	6 月	横本 恭弘 (大学・建築・S55)
	武田 憲一 (保二会・電波・S36)		1 月	森永 孝登 (大学・電子・S58)		土山 清昭 (大学・機械・S50)		高崎 恭吉 (高専・電気・S45)
濱田 雅弘 (大学・機械・H3)		4 月	竹内 理 (大学・土木・S50)	2 月	杉本 邦雄 (大学・経営・S53)		弭間 弘耶 (大学・機械・S51)	
武藤 憲夫 (保二会・電波高・S39)		5 月	吉田 雅一 (大学・機械・S53)		藤村 明 (大学・機械・S46)	8 月	山本 覚 (大学・経営・S58)	
平成 4 年	大寺 勝 (保二会・電波高・S41)		北中 一夫 (保二会・電波専・S41)		北村 陽夫 (保二会・工大附・S45)	10 月	舛井 伸榮 (大学・機械・S63)	
平成 28 年 11 月	川島 法夫 (保二会・電波高・S39)	6 月	杉田 修一 (大学・建築・S54)		長坂 廣行 (大学・電子・S55)			

堀幸夫先生

名誉教授 (副学長)

令和6(2024)年7月5日、逝去。96歳。平成6(1994)年に教授として着任され、同年から14年間、副学長を務められ、学事顧問、学園の「十年委員会」の座長も歴任されました。広い視野からの知見は、本学の発展に多大なご功績を残されました。



服部進実先生

名誉教授

令和6(2024)年8月31日、逝去。84歳。富士通株式会社に入社後、平成元(1989)年に教授として着任されました。専門は情報通信工学で、研究室からは学部生198人、大学院の修士97人、博士2人を輩出し、教育と研究、人材育成に尽力されました。



平泉隆房先生

教授

令和6(2024)年8月16日、逝去。70歳。明倫館塾頭、日本学研究所所長として、本学における教職員研修や人文分野の研究の発展に尽力されました。特に平成17(2005)年から2年次の必修科目として新設された「日本学(日本と日本人)」の運営を主導されました。



夏目賢一先生

教授

令和6(2024)年9月6日、逝去。49歳。平成18(2006)年に講師として着任され、平成25(2013)年に准教授、令和4(2021)年に就任した。主に基礎教育部修学基礎教育課程を担当され、教育および研究に真摯も取り組む姿勢は、他の教員の模範となりました。



令和6(2024)年春の叙勲で
次の方が受章されました。

黄綬褒章 (春)

住田 孝昭氏
(大学・建築・昭和51年卒)

財務大臣納税表彰

末栄 康則氏

(高専・電気・昭和44年卒)

叙勲などの慶事を誌面でご紹介いたしますので、ごぶし
会事務局まで情報提供をお願いいたします。

編集後記

◆今号の特集では、多彩なフィールドで輝く同窓生の姿を取り上げました。それぞれの道で活躍する姿は、同じ学び舎を共有した私たちにとって大きな誇りです。誌面を通じて、学生時代を思い出した方もいるでしょうし、新たな刺激を受けた方もいるかもしれません。これから、全国各地で切磋琢磨する皆さんの物語を伝えていきたいと思っておりますので、情報提供をお願いいたします。

◆金沢工業大学は令和6(2025)年、6学部17学科に改組し、新たな挑戦を始めます。「文理探究」を掲げ、AIやデータサイエンスを核に、複雑な社会課題を解決する人材を育成するそうです。新しい情報技術を融合した革新的な学びで、次代を担う力を育むトライする姿に期待が高まります。このチャレンジが未来を生み出す礎となり、学園の発展につながることを願うばかりです。／記T.N

こぶし会の国際交流支援事業

留学生に挑戦する学生を支援

こぶし会では、国際高等専門学校と金沢工業大学が行う国際交流活動に参加する学生を支援しており、令和6(2024)年度は、SDGsインターンシップ、海外英語研修、協定大学のサマープログラムなど、学生の多様な留学をサポートしました。ドイツのリップシュタット応用科学大学に留学した大矢良斗さん(大学院・電気電子工学専攻2年)は「必要とされる技術や価値観の違いを知り、知見が広がった」と語りました。



ドイツの企業文化を学んだ大矢良斗さん(左)



留学の経験を報告した帰国報告会

第28回 全国一斉ボウリング大会 BOWLING \ 233人が熱投! /

令和6(2024)年11月8日から11月16日にかけて全国23支部22会場で開催され、会員138人、家族95人が熱投を繰り広げました。参加者はストライクやスペアを出すと、仲間たちとハイタッチをするなど笑顔でした。



賞品でカニをGET!

【成績】南本好民さんが優勝!

(大学・土木・昭和49年卒)

【会員の部】

- 👑 優勝 414点 和歌山会場 南本好民さん(大学・土木・昭和49年卒)
- 👑 2位 354点 岐阜会場 佐藤直樹さん(大学・建築・平成3年卒)
- 👑 3位 344点 金沢会場 岡本 勉さん(高専・電気・昭和43年卒)
- 4位 340点 沖繩会場 新垣 聡さん(大学・土木・昭和58年卒)
- 5位 333点 能登会場 谷内清秀さん(大学・経営・昭和51年卒)

【家族の部】

- 👑 優勝 446点 富山会場 西崎さおりさん
- 👑 2位 416点 能登会場 前田令子さん
- 👑 3位 377点 富山会場 西田裕美さん
- 👑 3位 377点 金沢会場 酒本慎二さん

※スコアは2ゲームのトータルです。 ※会員の部で同点の場合は、年長者が上位となる。 ※家族の部で同点の場合は、両者とも同順位となる。



「保二会のあゆみ」が完成
かねてより制作を進めておりました「保二会のあゆみ」が完成し、保二会の皆さんに順次発送いたします。学校の歴史と記憶が詰まった冊子に、ご期待ください。

令和7(2025)年6月 第14回こぶし会総会開催

詳細につきましては、こぶし会ウェブサイトをご覧ください。

【卒業生の皆さまへ】各種証明書発行について

大学の
場合

■ 金沢工業大学ウェブサイト
<https://www.kanazawa-it.ac.jp/>
TOPページ → 卒業生の方 → 各種証明書発行



金沢工業大学

高専の
場合

■ 国際高専ウェブサイト
<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/>
TOPページ → 卒業生の方 → 各種証明書発行



国際高専

こぶし会を日本一の同窓会組織に！ 同窓会維持会費納入のご案内

こぶし会では、平成7(1995)年度より「同窓会維持会費」制度を導入し、**満40歳以上の会員に年額1,000円を納入していただいております。**

80,000人を超える会員と各支部への活動支援、年2回の『会報こぶし』の発行など、同窓会活動の発展を図るために、ご理解とご協力をお願いします。対象となっている方には、払込取扱票を同封しています。

■ 会費の払込方法 郵便払込(3年分一括払い3,000円)

お近くの郵便局から同封の払込取扱票を利用して払い込んでください。住所等の訂正がございましたらインフォメーションカードにご記入の上ご返送ください。

対象者

- 保二会全会員
- 高専同窓会 令和7(2025)年3月末日で40歳以上の会員
- 大学同窓会 令和7(2025)年3月末日で40歳以上の会員

※会費の納入は80歳までとさせていただきます。
※令和3(2021)年度に3年分の同窓会維持会費の払い込みをされた方は、令和6(2024)年3月に期限が切れております。払込取扱票を同封させていただいた方はその該当者となりますので、払い込みくださいますようお願いいたします。

こぶし会
事務局

〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7番1号 金沢工業大学内
TEL.076-294-6375(直) FAX.076-294-0886
Eメール.kobushi@kanazawa-it.ac.jp URL.https://www.kobushi.jp



こぶし会